

ご来場ありがとうございます

第31回

大磯町社会福祉大会



日時 令和6年11月9日(土)午前10時45分から午後4時
場所 大磯町立福祉センターさざれ石
内容 式典(福祉功労者・福祉作文表彰、大磯小合唱団唱歌ほか)
子育て支援シンポジウム(星山麻木明星大教授ほか)
ボランティア体験、福祉団体による展示・模擬店など
主催 第31回大磯町社会福祉大会実行委員会(町社会福祉協議会内)
後援 大磯町、大磯町教育委員会 /協力 一般社団法人やっほー

社会福祉大会について

社会福祉大会は、民間福祉活動や地域福祉の推進を図るため、(1) 永年にわたり町の社会福祉活動に貢献した町民及び団体を表彰する場として (2) 町民の方々とともに、身近な地域福祉問題を考える場として (3) 町民相互や町民の方々と福祉関係者の交流を図る場として開催します。

展示 2階 廊下

11時00分から16時00分

社会福祉法人エリザベス・サンダース・ホーム
大磯町民生委員児童委員協議会
大磯町保護司会
保育ボランティア



出店 地階及び駐車場

11時30分から16時00分 (売り切れ次第終了)

大磯町食生活改善推進団体 (地階及び駐車場)

軽食・スープ 調理・販売

社会福祉法人おおいそ福祉会 (かたつむりの家) (駐車場)

焼き菓子、雑貨 販売

大磯地区更生保護女性会 (駐車場)

ビスケット・あられ等 販売

大磯町災害救援ボランティアの会 (駐車場)

活動紹介

社会福祉法人素心会 (駐車場)

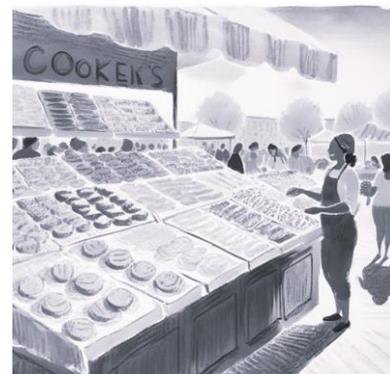
焼き菓子・木工作品・紙漉き製品等 販売

大磯町民生委員児童委員協議会 (駐車場)

バザー

社会福祉法人大磯町社会福祉協議会 (駐車場)

ソーセージ 販売



プログラム

2階 レクリエーション室



10時45分から11時00分 オープニングセレモニー

大磯小学校合唱団

11時00分から11時30分 式典【3ページに詳細掲載】

開会・あいさつ

福祉活動功労者表彰・大磯町福祉作文コンクール表彰

記念撮影

閉会・合唱

13時15分から15時15分

子育てシンポジウム「地域の子育て」【6ページに詳細掲載】

○ 基調講演

星山麻木氏 (明星大学 教育学部 教育学科 教授)

(一般社団法人星と虹色な子どもたち 代表)

○ パネルディスカッション

・コーディネーター 星山麻木氏

・パネリスト 中村 圭氏 (一般社団法人やっほー 代表理事)

鈴木義邦氏 (大磯町教育研究所所長)

加藤恭子氏 (大磯町主任児童委員)

体験等イベント

地階、2階及び駐車場

11時30分から16時00分

手話サークル磯の会 (駐車場)

「手話を使って、ろう者と話してみよう！」

大磯町傾聴ボランティアの会ほほえみ (2階 相談室)

どんなことでも“あなたの一番の思い出”をお話してみませんか？

大磯町東部・西部地域包括支援センター (2階 相談室)

相談コーナー・測定会

大磯ケアセンターさざれ石 (地階)

デイサービスの体験

式典

式次第

1. オープニング 大磯小学校合唱団 様
2. 開会の御挨拶 第31回大磯町社会福祉大会実行委員長 鈴木豊男子
3. 来賓紹介 大磯町長 池田東一郎 様
大磯町議会議長 吉川重雄 様
大磯町教育長 府川陽一 様
神奈川県平塚保健福祉事務所副所長 中村 建様
4. 来賓祝辞 大磯町長 池田東一郎 様
5. 福祉活動功労者表彰 (23名1団体)
【民生・児童委員、保護司、人権擁護委員】
小島孝臣様、麻田聡子様、安池幸子様、浦田福代様、岩田 隆様、
坂本きみえ様、松本博美様、藤田季佐子様、米山絵美様、齋藤雅子様
【地域福祉推進委員会】
遠藤聰太郎様、田中波津恵様、遠藤幾子様、飯島勝美様、佃ノブ子様
【ボランティア】
小野修司様、藤曲大樹様、簗島 肇様、原田秀子様、原田朝和様、
加藤和子様、原美穂子様、日吉弘子様
【ボランティア団体等】
西小磯西地区ボランティア様
6. 大磯町福祉作文コンクール入賞者表彰 (8名)
【小学生の部】
大磯町社会福祉協議会会長賞
町立国府小学校6年 坂井勇仁様 『障害者と出会って気づいたこと』
神奈川県共同募金会大磯町支会支会長賞
町立国府小学校6年 金屋愛実様 『支える力』
【中学生の部】
大磯町社会福祉協議会会長賞
町立大磯中学校3年 小江哲朗様 『小さな福祉』
神奈川県共同募金会大磯町支会支会長賞
町立大磯中学校3年 澁谷拓登様 『祖母と上手に暮らすために』
佳 作
町立大磯中学校3年 高橋芽生様 『お囃子と地域』
町立大磯中学校3年 三木杏夏様 『誰もが過ごしやすい社会を作るために』
町立大磯中学校3年 山形理海様 『日常』
町立大磯中学校3年 高橋苑花様 『福祉について思うこと』
7. 記念撮影
8. 来賓祝辞 大磯町議会議長 吉川重雄 様
9. 閉会 (合唱) 全員 「翼をください」 以上

大磯町社会福祉協議会会長賞受賞作品紹介

『障害者と出会って気づいたこと』 作／坂井勇仁

「ともに生きる」と書かれたポスターを町の中で見かけたり、いのちの作文の参加賞のファイルにも同じポスターが描かれていた。障害者に関することは分かっていたけれど、どのような意味があるのだろうと気になっていた。

先日、学校で車椅子バスケの体験授業があった。パラリンピック代表選手の力強いプレーを目の前で見て「本当に障害者なのか」と驚いた。僕も実際に車椅子に乗り体験することができた。見ているのとは全く違い、重く思うように動かすこともできず、全然ボールが飛ばない。けれど気持ちはとても楽しかった。障害があってもバスケ用の車椅子があれば障害者も楽しむことができると思った。

また僕が五年生の時に、町の手話サークル会員である祖母の誘いで、お楽しみ会に参加した。僕は名前を手話で表現することしか出来なかったのも、ろう者の人と交流できるか不安だった。その中で、身ぶりで何の童話を表しているかを当てるゲームがあった。手話もできない僕が伝えることができるのだろうかと思いながら、とにかく思いうかぶ身ぶりと表情でがんばってみた。すると、ろう者が笑顔になり、うなずき始めた。僕の表現でもしっかりと伝わるのだと思っておどろいた。

また、あるろう者が電車に乗っていた時、緊急停車。車内アナウンスが聞こえないため不安だったが、となりの人がスマホを使って状況を教えてくれたので安心できた、と話していたことを思い出した。

手話が使えなくても交流やサポートができること、必要な道具があれば一緒に楽しめることをぼくは知った。僕ができることは何かを考えて、協力し合えば良いのだと思った。「ともに生きる」の意味が僕なりにわかった気がした。

『小さな福祉』 作／小江哲朗

僕は生まれつき手足が不自由で、特に右手と右足が動かしにくい。激しく転倒するリスクがあるため、屋外では装具をつけて生活している。

この障害のせいで不便なことも多い。同学年の他の生徒より運動能力が著しく低いため、体育や運動会などでの活動がとても苦手だ。また、どうしても歩く時や立つ時に体が傾き、歩き方も不安定なので、手すりのない階段を一人で登るなどの行動ができない。道路の舗装の割れ目やごくふつうの階段、道端の石や木の根。健常者が気に留めることもなく通過するであろうこういった存在も、僕の行く手を阻む強敵になる。

次に困るのは、からかわれることである。僕の装具や独特な歩き方は嫌でも人目につく。バカにされたり、歩き方を真似されたりしたことが何度かある。僕はそこまで気にするタイプではないのだが、やはりどこかに自分を軽べつする人がいるかもしれない。というのは不安の種だ。初対面の人と会ったときも、ついつい「この人も自分をからかってくるのではないかと失礼な想像をしてしまう。

このように書くと、僕は日々苦勞して過ごしていると思われるかもしれない。しかし僕は、自分が幸せ者であるということは疑いようがないと思っている。なぜなら、僕は人に助けをもらうことが多いからだ。両親や医者、理学療法士の方はもちろんだが、何も家族と専門家だけではない。階段を下りるときに支えてくれる人。重い荷物を代わりに持ってくれる人。そしてなにより、障害のことを抜きにして、僕と何の変哲もない会話をしてくれる人。僕から見れば、何気ない日常の中にいる人皆が、僕を支え、助けてくれている恩人なのだ。

小学生のときだった。友達と、僕の足について話していた時のことだ。僕の障害は治るものなのか、と尋ねられたので、治らない、と答えた。すると彼は、満面の笑顔で「きっと治るよ!」と言ったのだ。結論から言うとやはり治ることはないのだが、僕はこの言葉がとてもうれしかった。治るかどうかの問題ではなく、彼が自分を励ましてくれたことに感動したのだと思う。もう三・四年前の出来事だが、きっと死ぬまで忘れないだろう。

不便なことがあるからこそ、自分を支えてくれる人の優しさ、温かさを敏感に感じとれるようになったのかもしれない。

ここまで書いてふと思った。では自分はどうだろうか。これだけ多くの人に支えられ、助けられておきながら、僕の今までしてきたことと言えば自分のことだけだ。僕も、誰かを支えたり、助けたりしなくてはいけないのではないだろうか。

(5ページへ続く)

では、誰かを「助ける」「支える」とはどういうことなのだろうか。さらに言うと「福祉」とは何なのだろうか。

僕は今まで「福祉」という言葉に対して、法律や社会保障制度が関係する「なんとなく難しいもの」というイメージを抱いていた。しかしこの作文を書くことを通して、「福祉とは皆が暮らしやすいように人々がお互いを思いやることではないかと具体的に考えられた。多額のお金と長い時間をかけ、たくさんの人を対象に行う「大きな福祉」はもちろん立派だ。しかし、まずは近くにいる人を思いやり、それを少しでよいので行動に移す「小さな福祉」を行うことが大事だと思う。「小さな福祉」もたくさん集まれば、人々がお互いを助け合う「福祉の輪」が広がり、よりよい社会ができてゆくはずだ。

僕は、今までたくさんの方のささやかな善意に助けられ、支えられてきた。僕も彼らと同じように、心の中の「ささやかな善意」を勇気を出して行動に変え、身の周りの人をほんの少しでも助け、支えられる人になりたい。

全員合唱

翼をください

作詞：山上路夫/作曲：村井邦彦

いま 私の願いごとが
かなうならば 翼がほしい
この背中に 鳥のように
白い翼 つけてください

この大空に 翼をひろげ
飛んで行きたいよ
悲しみのない 自由な空へ
翼はためかせ
行きたい

いま富とか 名誉ならば
いらないけど 翼がほしい
子どものとき 夢みたこと
今も同じ 夢に見ている

この大空に 翼をひろげ
飛んで行きたいよ
悲しみのない 自由な空へ
翼はためかせ

この大空に 翼をひろげ
飛んで行きたいよ
悲しみのない 自由な空へ
翼はためかせ
行きたい

子育てシンポジウム

1. 開催趣旨

少子高齢社会において、地域の子育て力の衰退が問題となっています。このような社会情勢において、地域はどのように子育てに関わるべきか、どのように関わってもらいたいかなど、「地域の子育て」をテーマにさまざまな視点から考える場とします。

2. プログラム

(1) 基調講演

講師 星山麻木氏（明星大学教育学部教授）

(2) パネルディスカッション

コーディネーター 星山麻木氏

パネリスト 鈴木義邦氏（大磯町横溝千鶴子記念教育研究所所長）
加藤恭子氏（大磯町民生委員児童委員協議会主任児童委員）
中村 圭氏（一般社団法人やっほー代表理事）

3. 出演者プロフィール

星山麻木（ほしやま あさぎ）氏 明星大学教育学部教育学科教授/保健学博士/一般社団法人こども家族早期発達支援学会会長/「一般社団法人 星と虹色な子どもたち」代表など

・東京学芸大学音楽科卒業後、養護学校で音楽教師を務め、退職後、横浜国立大学大学院修士課程(障害児教育)修了、東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻(母子保健学)博士課程修了。メルボルン大学客員研究員(早期介入)。鳴門教育大学障害児教育講座助教授を経て現職。

鈴木義邦（すずき よしくに）氏 大磯町横溝千鶴子記念教育研究所所長

・大磯町出身、町内在住。昭和 56 年県教育委員会に採用され町立国府小学校に着任、県生涯学習文化財課主幹、町教育委員会子ども育成課主幹、学校教育課副課長及び町立国府小学校校長を歴任し退職。平成 31 年より現職

加藤恭子（かとう やすこ）氏 大磯町民生委員児童委員協議会主任児童委員 西部地区担当/看護師（高齢者介護）/生活クラブ生協嘱託職員/農家手伝い

・静岡県清水市（現静岡市）出身、町内在住。横浜市在住時に子育てで主任児童委員にお世話になった経験から、当町へ移住後、主任児童委員を引き受ける。現在 2 期目。

中村圭（なかむら けい）氏 一般社団法人やっほー代表理事/株メディアジーン『7NaNatural』ブランドディレクター・クリエイティブディレクター

・東京都目黒区出身、町内在住。中学生の息子を育てながら、一般社団法人やっほーを立ち上げ、こどもの居場所づくりやこども食堂の開催など、こどもと地域みんなのコミュニティスペース「ヤッホー」を運営中。

メモ

社会福祉法人大磯町社会福祉協議会賛助会員様

(令和6年11月1日現在 順不同・敬称略)

【法人、会社、事務所等】

(株)相湘建設、(有)蒔田建設、(有)相湘ハウジング、(株)湘南マツダ、(有)矢部自動車整備工場、箕島医院、(有)佐野材木店、(株)空創工房、山口米店、相模野興業(株)、アシスト・クルー(株)、小島重蔵税理士事務所、浜田畜産(株)、(株)井上蒲鉾店、湘南興業(有)、中南信用金庫、(株)ZEO&P、大磯二宮漁業協同組合、ライフデリ西湘店、(有)丸佐鈴木工務店、湘栄建設(株)、(株)友月堂、(有)仲手川製綿所、(有)國よし、小田原ヤクルト販売(株)、(有)精興商事、(有)西方土建、(株)大創建設、エィチ・ビーアンドシー(株)、日本貨物鉄道(株)、(株)本城商店

【関係機関、団体等】

大磯町老人クラブ連合会、大磯町民生委員児童委員協議会、(公社)神奈川県看護協会おいそ訪問看護ステーション、(社福)素心会、大磯地区更生保護女性会、大磯町人権擁護委員会、大磯町商工会、大磯ライオンズクラブ、(社福)恵伸会 サンキッズ大磯、介護老人保健施設大磯幸寿苑

<本大会は、賛助会費を原資に開催しています。多大な御支援をありがとうございます>

令和6年11月1日作成